

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
1.自社の取り組み状況 (1/3)	<p>① <b>社内における削減量の算定ルール</b> 明文化している</p> <p>② <b>明文化した目的／拠り所とした基準／拠り所とした理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>明文化した目的</b> グループ各社がバリューチェーン（スコープ3）を算定する場合の基本的な考え方をまとめ、算定開示に向けた算定方法の共通化を図るため</li> <li>● <b>拠り所とした基準</b> 環境省・経済産業省「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(ver. 2.0)」</li> <li>● <b>拠り所とした理由</b> 環境省・経済産業省が公開しているため</li> </ul> <p>③ <b>製品・サービスの提供によるGHG排出量の削減に関する定量的な目標（削減量、削減に資する製品・サービスの販売数など）</b> 定量的な目標がある</p>

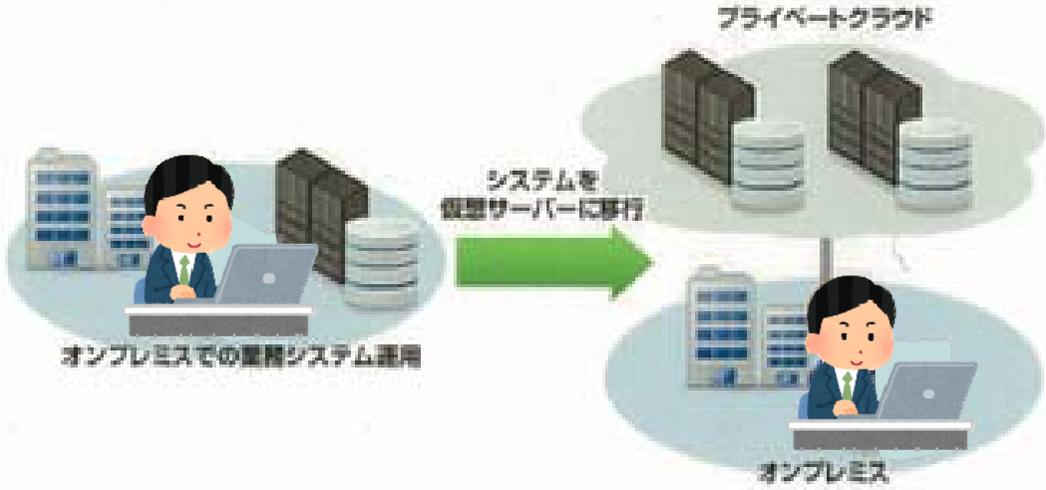
# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
<p>1.自社の取り組み状況 (2/3)</p>	<p>④ <b>削減量把握の範囲</b> 国内だけでなく、海外も含む</p> <p>⑤ <b>削減を促進するための社内インセンティブや普及活動</b> ● <b>社内インセンティブ</b> NTTグループでは、ICTサービスやソリューションによって社会の環境負荷低減に貢献するために、「NTTグループによる社会のCO<sub>2</sub>排出の削減貢献量を、NTTグループ自身の排出量の10倍以上とします。」という目標を掲げ、取り組みを進めています。加えてNTTグループは、ICTによる環境貢献をお客さまにわかりやすく伝えるため、また自ら環境への取り組みを促進するために、「ソリューション環境ラベル制度」を策定し、2009年度から運用しています。この制度では、NTTグループ各社のICTソリューションのうち、一定の環境負荷低減効果があるものを「環境にやさしいソリューション」として認定し、「ソリューション環境ラベル」を付与するものです。具体的な認定基準としては「CO<sub>2</sub>排出量の削減量を定量的に評価した時に、その削減率が15%を超えるもの」としています。「ソリューション環境ラベル」に認定されたソリューションについて、社内で認定式を行うとともに、社内外の表彰へのエントリーを支援しています。</p>

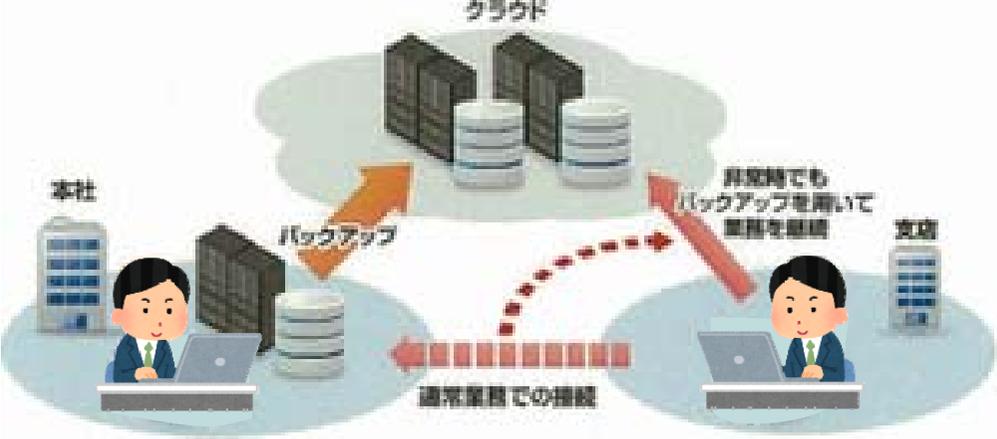
# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
<p>1.自社の取り組み状況 (3/3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>普及活動</b> 「ソリューション環境ラベル」に認定されたソリューションを社内外ホームページに掲載するとともに、全社員向け環境保護研修における教材に「ソリューション環境ラベル」の説明と、ラベル認定されたソリューションと評価結果を採り上げています。</li> <li>● <b>社内他部署（製品開発・生産部門など）との連携</b> 各業務主管と連携してグリーンガイドラインを策定し、社内横断的に環境負荷削減に取り組んでいます。グリーンガイドラインには、調達部門および全部門に向けた「グリーン調達ガイドライン」、建物設計担当が利用する「建物グリーン設計ガイドライン」、通信機器等を調達する際に参照する「省エネ性能ガイドライン」、研究開発部門が利用する「グリーンR&amp;Dガイドライン」があります。</li> <li>● <b>その他</b> 「ソリューション環境ラベル」の取得にあたり、取得候補の選出結果、およびICTソリューションの環境影響評価結果を、それぞれ副社長がトップを務める社内の環境に関する会議にて報告し、了承を得て取り組んでおります。</li> </ul>

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
<p>2. 代表的な製品・サービスの算定内容(1/6)</p>	<p><b>【代表的な製品・サービス名】</b> スマートコネクトVPS</p> <p>① <b>算定方法</b> NTTスマートコネクトのスマートコネクトVPSは、高い信頼性を実現する機能と、しっかりとした安心を支える運用体制によって、VMware※を使った仮想環境をご提供します。以下のような用途に活用いただけます。 ※VMwareは米国およびその他の地域におけるVMware商標および登録商標です。</p> <p><b>(1) 業務システムのクラウド化に</b> お客様のシステム更改にあわせて、オンプレミスでのシステムをクラウド化し、現用の業務システムとして活用いただけます。</p> 

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
2.代表的な製品・サービスの算定内容(2/6)	<p data-bbox="539 331 2096 491"><b>(2) バックアップ用システムの構築に</b> お客様のオンプレミスにある現用の業務システムのバックアップシステムをクラウド化します。</p> 

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
2.代表的な製品・サービスの算定内容(3/6)	<p data-bbox="539 331 1995 496"><b>(3) 自社アプリケーションのPaaS/SaaS化に</b> 自社の顧客に対して提供している業務アプリケーションを仮想サーバーに導入し、PaaS/SaaSといったクラウドサービスとして提供することができます。</p>  <p data-bbox="539 1236 2092 1453">「スマートコネクT VPS」を利用することによって、自社でサーバーなどの設備を構築する必要がなく、また、システム管理者の保守・運用稼働削減となることから、ICT機器利用やシステム管理者等の人の稼働に伴って発生するCO<sub>2</sub>排出量を削減することができます。</p>

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
<p>2.代表的な製品・サービスの算定内容(4/6)</p>	<p>&lt;評価モデル&gt;            (1) 機能単位            サーバ約1,000台分の1年間の保守・運用を含めた利用を行います。            (a) 従来手段            ユーザーが個別にサーバをたて、空調やNW機器を個別設置し、保守・運用を含めた利用を行います（1企業あたりのサーバ保有台数平均約10台を想定）。            (b) スマートコネクトVPS            ユーザーの所有するサーバをデータセンターで一括管理します。サーバを一括管理するため、保守・運用稼働の削減になり、空調やNW機器などの共通設備も効率化されます。また、ユーザーは、データセンターにあるサーバにNWを介して接続します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="689 922 1193 1441" style="border: 1px solid green; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; color: green;"><b>従来手段</b></p> <p style="text-align: center;">お客さま側拠点 × 約90拠点</p> <p style="text-align: center;">空調機 PC・ユーザー サーバー 保守・運用稼働 ストレージ</p> </div> <div data-bbox="1216 922 1912 1441" style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; color: blue;"><b>スマートコネクトVPS</b></p> <p style="text-align: center;">お客さま側拠点 × 約90拠点</p> <p style="text-align: center;">PC・ユーザー スイッチ</p> <p style="text-align: center;">データセンター × 1</p> <p style="text-align: center;">空調機 保守・運用稼働 サーバー ストレージ NW機器 (FW, LB, スイッチ)</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">スマートコネクトVPSの評価モデル図</p>

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容		
2.代表的な製品・サービスの算定内容(5/6)	<評価対象と活動の関係> 対象ライフサイクルステージ		
	[凡例 ○：評価対象、－：評価対象外]		
		従来手段	スマートコネクト VPS
	ICT 機器利用	○	○
	NW インフラ利用	－	○
	ソフトウェア利用	－	○
	人移動	○	○
	物移動	－	－
	材料・エネルギー消費	－	－
	物保管	－	－
人執務	○	○	
※人移動は「人執務」に伴って発生する通勤による人移動です。			

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容						
2.代表的な 製品・サービ スの算定内 容(6/6)	<p>② 算定結果            &lt;評価結果&gt;            スマートコネクTVPSの導入によって、(1) (a)の従来手段と比較して1年間あたり77%のCO<sub>2</sub>排出量が削減される結果となった。これは、1契約あたり約20トンのCO<sub>2</sub>排出量が社会全体で低減できることを示している。</p> <p>従来手段とスマートコネクTVPS（全体）との年間CO<sub>2</sub>排出量比較</p> <table border="1"> <caption>従来手段とスマートコネクTVPSの年間CO<sub>2</sub>排出量比較</caption> <thead> <tr> <th>手段</th> <th>削減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従来手段</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>スマートコネクTVPS</td> <td>23%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※従来手段のCO<sub>2</sub>排出量を100%として、それぞれの割合を表しています。</p>	手段	削減率	従来手段	100%	スマートコネクTVPS	23%
手段	削減率						
従来手段	100%						
スマートコネクTVPS	23%						

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
<p>3.その他 アピールポイント、連絡事項など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NTTグループでは、ICTサービスやソリューションによって社会の環境負荷低減に貢献するために、「NTTグループによる社会のCO<sub>2</sub>排出の削減貢献量を、NTTグループ自身の排出量の10倍以上とします。」という目標を掲げ、取組みを進めています</li> <li>● 提供するICTサービスやソリューションによっては、お客さまのスコープ1, 2やスコープ3の環境負荷を低減する効果があるが、NTTグループのスコープ1, 2やスコープ3の環境負荷が増えてしまう場合があります</li> <li>● このような場合でも、NTTグループではライフサイクルアセスメントに基づく評価結果を考慮し、社会全体で従来より15%以上の環境負荷低減効果のあるICTサービスやソリューションを環境にやさしいソリューションとして認定し、提供を推進しています</li> <li>● NTTグループソリューション環境ラベル紹介ページ <a href="http://www.ntt.co.jp/kankyo/protect/label/index.html">http://www.ntt.co.jp/kankyo/protect/label/index.html</a></li> </ul> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>審査W18-02647-1</p> </div>

# 西日本電信電話株式会社

項目	内容
4. 講評	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>優れている点</b><ul style="list-style-type: none"><li>• ソリューションによって社会全体のCO<sub>2</sub>を減らす活動を、自社のスコープ3排出量を増やしてでも取り組むという仕組みができている点は良かった。</li><li>• ソリューション環境ラベルの付与制度は、その後の認定、表彰まで行うという点で、会社の中で意欲向上に繋がる非常に良い制度である。</li><li>• 社内体制について、副社長まで話を通すというシステムがある点で進んでいると感じられる。</li><li>• 15%以上削減という具体的な数値目標を掲げている点も評価できる点。自社排出量の10倍のCO<sub>2</sub>を社会から減らすという削減目標も独特な目標だと感じた。</li></ul></li><li>● <b>今後への期待</b><ul style="list-style-type: none"><li>• 削減率ではなく、削減量として情報を開示する方がインパクトがあり、取り組みに対しての意義もわかりやすくなる。削減量として、販売先であるユーザーにコミュニケーションできるとよい。</li></ul></li></ul>